

第5学年3組 学級活動指導案

平成25年11月19日(火)第5校時

指導者 山形 悟

1 議題 『世界に一つだけの5年3組カルタをつくろう』

2 議題について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、明るく元気で素直な児童が多い。様々な学校行事に意欲的に取り組み、2学期は勝瀬っ子祭り、富士見市親善陸上大会、校内音楽会と多くの行事を学級・学年で一致団結して活動してきた。本学級では、児童、保護者、担任の願いを合わせて決定した学級目標のもと、「絆組～3つの心～」を合言葉に、4月より、話し合い活動を計画的に実践しており、「話し合い、実践し、振り返る」という一連の活動を通して、楽しく豊かな学校生活をつくる自主的・実践的な態度の育成に取り組んでいる。

(詳細中略)

学級会で決まったことの実践では、児童が中心となって準備・活動していくが、役割は決まったものの、具体的に何をやるか分からず指示待ちになっている児童もいたり、ゲームや遊びで熱くなりすぎて相手チームの文句を言ってしまう児童もいる。このことから、児童の主体性や協調性を伸ばしていくことが、本学級の課題であると言える。

これらの学級の課題を児童にも意識してほしいと考え、本学級では2学期始めに学級目標の達成に向けて何が課題なのか学級活動(2)で話し合った。事前にとったアンケートの項目は以下の6点である。

2 学期のめあて決めアンケート

アンケート内容	よくできる	できる	あまりできていない	できていない
● 仲間を助ける！思いやりの心				
友達が困っていたら助けようとしていますか。	8	19	3	0
男女関係なく、仲良くできていますか。	3	14	11	2
● 苦手を得意に！挑戦する心				
得意なことをもっと得意になろうとしていますか。	16	6	8	0
苦手な勉強でも、がんばって取り組んでいますか。	11	11	8	0
● 力を出し切れ！あきらめない心				
学校行事に100%の力で取り組むことができますか。	11	13	6	0
自分の役割を途中で投げ出さずに、責任を果たすことができますか。	11	15	4	0

この6つの項目を円グラフ化し、児童に提示したところ、多くの児童から「男子も女子も相手のことをお互いよく思っていない」「得意な勉強をするのは好きだけど、苦手なことはあまりやらない」「学校行事にもっと一生懸命になれるはずだ」との意見が出た。こうして学級目標達成のための学級の重点目標として 男女協力 苦手教科の克服 全力で取り組む学校行事の3点を決め、2学期の個人目標にも、課題解決のための取組を考えさせ、自己決定させた。2学期は、この3つの重点に力を入れて様々な教育活動、そして、特別活動に取り組んでいる。具体的な取組として、2学期の係や集会活動の役割分担を男女混合にしたり、学校行事ごとのめあてカードに取り組ませたりするなどして、学級目標を意識させた活動を行っている。

(2) 議題選定の理由

本議題を話し合うまで、本学級では様々な議題を話し合ってきた。1学期は今まで積み上げてきた学級会の経験をもとに、基本的な話し合いの仕方や折り合いのつけ方、計画委員の活動内容について学んできた。具体的には「クラスの係を決めよう」「クラスの旗を決めよう」「5・3カップをしよう」など、児童の創意工夫を生かせる議題を、PDCA サイクルを通して話し合ってきた。2学期はさらに児童の自主性・協調性を伸ばすことも意識して、「係をパワーアップさせよう」「ハロウィンパーティーをしよう」「スポーツ大会をしよう」などの議題を話し合い、実践してきた。児童はこれらの活動を通して、学級会の楽しさや、みんなで決めることの大切さについて気付くことができるとともに、学級目標にどれだけ近付けたかを意識して話し合いや実践を振り返ることができるようになってきている。

本学級では、毎学期の始めに、学級会の議題カードを記入し、学級全体で学期ごとの学級会の活動計画を決めている。本議題は、「2学期は今まで取り組んだことのない議題を取り上げよう」という担任の声かけで、児童から出された議題案を全体で決定したものであり、児童にとっては初めての取組となり、本議題に対する興味・関心は高い。

また、本議題は、本学級の2学期の重点課題でもある、「男女協力」にかかわる議題でもある。本学級は男女の仲は悪くはないが、率先しての交流はあまりない。係活動やお楽しみ会の役割分担も1学期は男子同士、女子同士の係ばかりであった。やはりそれでは一部の仲の良い友達だけの限定された「協力」にしかならず、児童相互の望ましい人間関係は構築できない。男子には男子、女子には女子それぞれの良さを合わせるからこそ、よりよいアイデアが生まれ、活動そのものが盛り上がっていくと考える。そのためには、何か1つのことを学級全員で協力し、つくり上げたり、成し遂げたりする活動を通じた成功体験の蓄積が大切である。

今回のカルタづくりはまさに児童の創意工夫を生かし、協力することの大切さを気付かせるには最適な活動である。その理由は2点ある。1点目は、様々な面で児童の創意工夫を生かすことができるからである。カルタはだれもが一度はやったことのある遊びであるので、大まかな遊びのイメージは全員が共有しており、ルールも分かりやすい。更にカルタのテーマや、読み札や取り札の工夫、札の大きさや形、活用方法など、児童が工夫できることが多くあり、全員でよりよいものを作り上げていくことの達成感が大きいと考える。2点目は、カルタの作成には学級全員の協力、とりわけ男女の協力が欠かせないからである。読む文を考える、文字を丁寧に書く、絵を描く、色をつけるなど、カルタづくりには様々な役割が必要である。児童一人一人の個性を生かしてカルタづくりにかかわることで、全員でつくりあげることのよさや協力することの大切さ、そして学級のよさを共有できると考える。

このように、創意工夫を生かしたカルタづくりを通して、お互いのよさや、協力することの大切さにあらためて気付き、学級集団としてさらに高められていけたらと考え、本議題を選定した。

3 評価の観点と評価規準

集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
カルタづくりに向けて、学級や友達の良さに関心をもち、他の児童と協力して話し合い・実践に取り組もうとしている。	カルタづくりの目的や意義を理解し、よりよいカルタ作りのための方法や手立てについて考え、判断し、実践している。	カルタづくりを通して、男女協力することの大切さや友達の良さ・学級の良さについて理解している。

4 事前の活動

月日(曜日)	活動の場	活動の主体	活動の内容	・指導上の留意点	目指す児童の姿
11/11 (月)	10分休み	計画委員	・本時の議題を確認する。		

	帰りの会	全員	・議題を全員で確認する。	・計画委員の話をもとに、全員で確認できるよう助言をする。
11 / 12 (火)	20分休み	計画委員 提案者	・学級会ノートを作成する。	・「友達の良さや学級の良さに気付く」「男女の協力」の2つの視点を入れて、提案理由の練り上げを行う。
11 / 13 (水)	6校時	全員	・学級会ノートを記入する。	・学級会ノートを書かせる前に、仲良しカルタ作成の目的を確認する。 仲良しカルタの目的を理解し、学級会ノートの自分の意見を記入している。(思・判・実)【ノート・観察】
11 / 15 (金) 11 / 18 (月)	業前時間	計画委員	・全員の学級会ノートに目を通し、話合いの準備を行う。	・学級会ノートを見て、話合いの流れを確認する。 ・話し合うことについては、事前に短冊黒板に意見を書いておき、掲示しておく。

5 本時のねらい

- 友達の良さや学級の良さに気付き、男女協力できるカルタを、みんなで考えて決めることができる。

6 展開(活動計画)

第11回学級活動 活動計画 平成25年 11月19日(火)第5校時		
議題	『世界に一つだけの5年3組カルタをつくろう』	
役割分担	司会(橋本)(清水) 黒板記録(西田)(夏川) ノート記録(葛貫)	
提案理由	5年3組がスタートして8カ月が経ちました。今は行事があるときは、男女協力して取り組むことができるようになってきました。 この提案をした理由は、カルタづくりを通して、友達の良さやクラスの良さをもっと知ることができし、男女の仲も、もっとよくなると思ったからです。 この話し合いをすると、「絆組」の名前のように、クラスの絆が深まり、「5年3組で良かった」と思えると考え、提案します。	
めあて	・友達の良さやクラスの良さをもっと知ることができるカルタを協力してつくろう。	
決まっていること	・カルタは班ごと分担してあ～ぬまでつくる。 ・カルタの大きさや形は計画委員で事前に決めておく。	
話合いの順序		資料・時間
1 始めの言葉	・全員が学級会の準備ができてから始める。 ・大きな声ではっきりと言う。 ・みんなに「はい」と言ってもらう。 ・みんなが話す人の方を向いて聞いているか、確認する。 ・しっかりと確認して、それに沿って話し合ってもらえるようにする。	5分 ・掲示資料 ・学級会ノート (事前に配布)
2 計画委員の紹介		
3 議題と話し合うことの確認		
4 提案理由の説明と先生の話		
5 めあてと決まっていることの確認		
6 話合い		
カルタの内容をどうするか	・話し合うことは事前に短冊に書いて貼っておくので、質問から始める。	15分

つくったカルタをどうするか つくるための役割分担をどうするか	・話し合うこと は意見の出し合いから始める。	10 分
	・「出し合う・比べ合う・まとめる」の順番で話し合いを進めていく。	10 分
	・5 分前には話し合いを終わりにできるように時間にも気を配る。	5 分
7 決まったことの確認	・決まったことを整理してノート記録が話す。	
8 振り返り	・時間を計り、時間までは書いてもらう。	
9 先生の話	・話す人の方を向いて聞いているか、確認する。	
10 終わりの言葉	・最後の礼までしっかりやる。	

7 指導上の留意点

話し合いの順序	・指導上の留意点 目指す児童の姿
1 始めの言葉	・計画委員が安心して進行できるよう、計画委員の近くで見守る。
2 計画委員の紹介	・拍手を促し、計画委員が活動しやすいような雰囲気をつくる。
3 議題と話し合うことの確認	・意見が出しやすい雰囲気をつくるため、話を聞く態度にも気を配る。
4 提案理由の説明と先生の話	・提案理由の思いや願いが、学級全員の思いとなるように助言するとともに、今日の学級会のめあてについて話す。
5 めあてと決まっていることの確認	・めあては提案理由をまとめたものであるもので、提案者にははっきりと読ませ、意識付けを行う。
6 話し合い	
カルタの内容をどうするか	・今回、柱は3つあるので、時間を意識させて司会進行を助けていく。
つくったカルタをどうするか	・話し合うこと の意見はあらかじめホワイトボードに記入しておき、「比べ合う」時間を多くとる。
つくるための役割分担をどうするか	・では、カルタの内容についての意見にしぼり、形や大きさについては事前に決めておく。
	・なかなか意見が言えない児童には、計画委員に助言し、意図的指名をさせ、発言を促す。
	・基本的に司会の進行に任せるが、話し合いが論点からそれた場合、進行に困っている場合は進行を助け、積極的に助言をする。
	・反対意見が多く取り下げられた場合は、意見を出してくれた児童に対して感謝の言葉を述べる。
	友達や学級の良さに気付き、より良いカルタにするための方法を考え、発表したり、聞いたりして、話し合いに参加しようとしている。
	(関心・意欲・態度)【発言・観察】
	カルタづくりの目的を理解し、提案理由、めあてを踏まえて考え、発言している。
	(思考・判断・実践)【ノート・発言・観察】
7 決まったことの確認	
8 振り返り	・児童の振り返りを観察し、うまく書けない児童には支援を行う。
9 先生の話	・前回の学級会と比べて良かったところ、次回への課題、計画委員へのね

10 終わりの言葉	ぎらいを中心に話をする。 ・最後は拍手で計画委員の労をねぎらう。
-----------	-------------------------------------

8 事後の活動

児童の活動	・指導上の留意点 目指す児童の姿
【11 / 20（水）朝の会】 ○役割分担の決定	・話合いで決定した役割を学級で分担する。
【11 / 22（金）業前時間】 ○かるたづくり開始	・協力してかるたづくりに取り組めるよう、支援をおこなう。 友達と協力してカルタ作りに取り組んでいる。 （関心・意欲・態度）【観察】
【12 / 】 ○かるたの完成とふりかえり	・かるたの完成の喜びをみんなで共有する。 カルタづくりを通して、男女協力することの大切さや友達の良さ・学級の良さに気づくことができる。 （知識・理解）【ノート・観察】